

1. 基本情報

渡航先国名・地域名 (☆)	イギリス
滞在都市 (☆)	ロンドン
留学先大学等名 (☆)	ロンドン大学、SOAS
留学先での所属学部/研究科 (☆)	留学生のため特別な所属学部はなし
留学先で主に使用した言語	英語
渡航先への入国日 (☆)	2015年 8月 23日
渡航先からの出国日 (☆)	2016年 6月 12日
渡航先国での滞在期間 (☆)	約10ヶ月
同伴者の有無・続柄・年齢等	なし
その他	

2. 留学先の大学に関する情報

2. 1 授業に関する情報

履修科目名称 履修期間 授業時間 (○分×△回) 授業形態 (講義・セミナー) 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間 (○分×△回) 授業形態 (講義・セミナー) 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間 (○分×△回) 授業形態 (講義・セミナー) 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間 (○分×△回) 授業形態 (講義・セミナー) 取得単位数	

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
留学生（日本人）の割合	SOASは日本からの交換留学生が多かった
成績評価の方法（試験・課題の数や分量等）	大体の授業は、3000ワードほどのレポートと期末試験で評価
履修科目の制限等（あれば）	
（英語圏以外の場合） 英語の使用頻度、英語での授業科目の充実度等について	

語学に関するサポート(特別授業、チューター、エッセイライティングに関するサポート等)	
授業内での留学生に対するサポート等	質問すれば答えてもらえるが、特別なサポートはなし(もともと留学生が多いので)
その他	

2. 2 福利厚生に関する情報

大学内での福利厚生施設(生協・購買・食堂)について	売店、食堂、カフェなどがある 学内にバーもあった
図書館について	日本の大学と変わらない。パソコン室もあった
保健センター等の有無	
クラブ・サークル等について	多くのサークルがあり、最初の方はイベントが多かった
留学生へのサポート	割と充実していると思うが、特に利用はしなかった
オリエンテーション等学校主催の行事について	初めころは、日本人留学生と日本語を学ぶ学生との交流会などもあった
現地の学生との交流について	留学生が多く、意外とイギリス出身の学生は少ない
他の留学生との交流について	寮のフラットメイトなどと交流があった
学外での活動について(地域コミュニティ活動等)	
長期休暇中の過ごし方	ヨーロッパを旅行した
その他	

3. ビザ・入国・渡航直後の手続きに関する情報

ビザの種類(☆)	Tier 4
ビザの取得手続きについて(申請方法、申請から取得までの所要期間等)(☆)	自分で申請した 大学からのCASナンバーが出るまで少し時間がかかったと思う。申請してからはあまり時間がかからない
利用航空会社	タイ航空
入国の際の現地空港名	ヒースロー
空港から滞在先への移動について(交通手段や所要時間)	タクシーで約1時間
入国審査について(提示した書類、審査官からの質問等)	厳しいと聞いていたが、あっさりしていた
渡航後の手続き(在留届の提出、外国人登録等)	在留届はすぐに提出した
その他	

4. 金銭に関する情報

奨学金の受給	<input checked="" type="radio"/> 無
奨学金名	JASSO海外留学奨学金
奨学金月額受給額(円)	10万円
入国時に用意した金額	
クレジットカードについて(カード会社名・日常の利便性)	VISAのカードを利用。大体どこでもカードが使える。便利なので少額でもカードを使用
留学中に利用した銀行名	ジャパンネット銀行
現地での銀行口座開設について(開設の有無・手続き等)	開設しなかった 1年以下なら口座がなくても特には困らなかった
デビットカードの使用について	ジャパンネット銀行のものを利用
日本からの送金方法について	ジャパンネット銀行に送金
1ヶ月の生活費(目安)	18-20万円ほど
その他	

5. 暮らしに関する情報

5. 1 住居に関する情報

住居の種類(学生寮(一人部屋・二人部屋)・アパート等)	寮、1人部屋だがキッチンのみ数人で共有
家賃	約10万円
住居を探した方法・時期	6月ごろに学校を通じて
荷物の運搬方法 (ハンドキャリー、国際宅配便(会社名、プランも)等)	ハンドキャリー、スーツケース2個
その他	

5. 2 食生活についての情報

普段の食事(自炊・食事つき学生寮等)	自炊、外食
1ヶ月の食費	6-7万
その他	

5. 3 その他日常生活に関する情報

電話について	日本で使っていた携帯を持っていき、現地でSIMカードのみ購入
インターネットについて(Wi-Fi環境等)	寮はWi-Fi完備だった、大学も
コンピュータについて	日本から持って行った

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

郵便について	運による、時々手紙が届かないことも・・・追跡できる荷物は基本的に大丈夫
交通機関について	地下鉄、バスは使ったが普段は徒歩で十分だった
治安について	日本とあまり変わらないように感じたが、時間帯によっては怖い
保険について	A I Uの保険に加入していた
医療機関・薬について	日本人医師のいる病院があり安心
気候と服装について	とにかく天気が変わりやすいので常に折り畳み傘が必要。 11-12月は特に日照時間が短く、夕方4時過ぎには暗くなる
普段の買い物について	近くに何軒もスーパーがあり便利だった
娯楽・行事について	美術館によく行っていた、基本的にロンドンでは無料
日本語の使用について	日本人留学生も多くそれなりに使った
日本から持参して特に役立ったもの/持参したら良かったもの	風邪薬などは普段使っているものを持参するといいと思う 現地の薬は体質に合わないをよく聞くので
留学前にしておいて良かったこと/しておけば良かったこと	デビットカードは旅行先でも現地通貨を引き出せるので 作っておいてよかった
その他	保険は保障が充実しているものを選んでよかったと思う 病気やけがだけでなく携帯の故障も対象だったので助かった

6. 就職活動に関する情報

留学前の就職活動について(セミナー参加、自己分析、業界研究、就活サイト登録等)	特にしなかった
留学中の就職活動について (海外からの情報収集、企業へのコンタクト、インターシップ等)	

7. 語学の学習方法について

留学前に準備したこと、語学能力試験対策等	I E L T Sを何度か受けた。 海外ドラマは楽しみながら勉強できる
留学中の学習方法、工夫したこと等	とにかく話す機会を増やすこと
留学後にどれぐらい語学力が伸びたか(主観的な実感や具体的なスコア等)	話すことには以前より慣れたと思う。 帰国後のT O E I Cは975点だった

8. その他

留学して得られたこと	いろいろな国の友人、貴重な経験
留学中に困ったこと	食事には苦労した
留学前/留学中に参考になったウェブサイト等	

9. 留学体験談・エッセイ（様式任意）

留学を決めた理由、現地で履修した授業およびその感想、楽しかったこと、大変だったこと、これから留学を考えている後輩へのメッセージ等を1～2ページ（様式任意）で記載してください。また、留学中に撮影した写真数枚（本人も映っているもの）も合わせて提出してください（国際交流室のHPやNewsletterに掲載させていただく可能性があります）。

私は高校生のころから海外に興味があり、大学に入ったらぜひ留学してみたいと思っていたので、2回生のときに迷うことなく部局間交換留学に申請しました。英語圏の国の中でも特に興味があったイギリスを選び、IELTSなど徐々に準備を進めていきました。8月後半に渡英し、初めの1ヶ月は準備コースを受けました。ここではエッセイの書き方やプレゼンの仕方など、今後の授業で必要になる基本事項を学びました。日本でとったIELTSのスコアが足りないため受けることになったこのコースですが、イギリスでの生活に慣れることができたし、9月から本格的に始まる授業に備えるという意味でも非常によかったです。また、このクラスで出会った友達とはその後の留学期間を通じても交流がありました。

イギリスでの授業はそれぞれがレクチャーとセミナーから成り、日本とはだいぶ異なるので新鮮でした。セミナーは少人数の、日本で言うゼミのようなもので、ケーススタディやディスカッションをします。初めは圧倒されてなかなか発言できずに苦労しましたが、しっかりと準備し備えることでだんだんと慣れていきました。前の週の授業で学んだことをもとにセミナーが展開されるため、セミナーの予習をすることで授業の復習にもなり知識が定着しやすかったように思います。長期休みにはほとんどすべての授業に3000ワードほどのレポートが課されており、提出時期も近いいため苦労しました。提出前には寮のキッチンや図書館などで集中して仕上げていました。日本ではあまりレポートを書く機会がなかったため苦労しましたが、教授と面談もしたりしてアドバイスをもらいました。

特に私が行ったロンドン大学SOASは学生の約半分近くが留学生という環境で、日本にはなかなか会えないような国の学生たちとも交流することができました。中東やアジアの研究が盛んという背景からか、シリアやイランの学生とも会いました。寮のフラットメイトがシリア人の女の子で、家族をシリアに残してきた彼女が、この状況の中家族にいつ何が起こってもおかしくないから常に覚悟しておかなければならないと言っていたのをよく覚えています。日本という安全な国で生きてきた自分にとっては衝撃を受ける話があるところもありました。

寮ではキッチンを共有するフラットメイトが5人いて、フランス、イタリア、イギリスなど皆出身国が違ったのでとても楽しかったです。それぞれの出身国の料理を作ってみんなで食べることもありました。私はジャパンセンターという日本の食材を扱うスーパーで材料をそろえ、お好み焼きを作り、みんなに喜んでもらえてとても嬉しかったです。

長期休みにはよく旅行をしました。美術館が好きなので、各地で名作を実際に見られてとてもいい思い出となりました。LCCの飛行機を使えば、驚くほど安くあちこちに行くことができ、とてもいい機会だったと思います。ロンドンでもほとんどの美術館が無料で、大学から歩いて行ける距離に有名な美術館があったためよく気分転換にっていました。ヨーロッパで10ヶ月もの間生活するという貴重な体験ができて本当に良かったです。

留学に行くということは学生生活の中でも大きな決断ですし、今後の人生にも影響し得るものだと思います。実際に留学に行ってみて思い描いていた留學生活のイメージと違うことや苦勞することはもちろんありましたが、少なくとも今後の人生であのとき留学していたら・・・と後悔することはありません。実際に行動を起こしてそこで得られたものはよくも悪くも今の自分の実力であり、将来への指標ともなると思います。特に、交換留学はとても恵まれた大きなチャンスであり、この制度を利用できたことにとても感謝しています。今後は向こうで学んだことや得た友人を大切に、日本でも頑張っていきたいと思いません。